

9月の歳時記

雑学・豆知識

十五夜・・・9月から10月の訪れる満月の日を「十五夜」または「中秋の名月」と呼びます。美しい月を鑑賞する行事として定着していますが、元々は収穫を祝う行事でした。秋の草花を飾り、月見団子や御酒、里芋など秋の収穫物を供えます。

秋彼岸・・・秋分の日前後3日間を合わせた7日間を秋彼岸といいます。墓参りをし、おはぎなどを供えます。

敬老の日・・・「多年にわたり社会に尽くしてきた老人を敬愛し、長寿を祝う日」として定められた国民の祝日です。

秋分・・・春分と同様に昼と夜の時間がほぼ等しくなり、この日を境に、次第に昼が短く夜が長くなります。また、この日は「祖先を敬い、亡くなった人々をしのぶ」ことを趣旨とする国民の祝日でもあります。また今年シルバーウィークで5連休があります。

お洒落なシティ感覚 ケアタウン飛鳥

このひと・・・紹介



横山ヨシ子さんは昭和3年11月14日、宮崎県の木花村生まれの86歳である。当時は綺麗な山や透き通った川が流れる自然豊かな村だったそうだ。少女時代は男勝りなおてんば娘だったらしく、男友達と木登りや鬼ごっこで遊んで毎日泥まみれになって家に帰っていたそうだ。女学校に行くようになってからは勉学に励み、家事も率先して手伝いをしていた。卒業後にお見合いの話があり、横山さんは「そんなに早く結婚はしたくない」と思っていたのだが、それでも一度お話だけならとお見合いをしたところ話が面白くて毎日一緒にいたいと思うようになり交際の末、20歳の時に結婚。新婚旅行では鹿児島にある坂本龍馬が入ったとされる妙見温泉に行ったことが思い出に残っている。その後、二人の男の子を授かり4人家族で幸せな生活をおくっていた。プライベートでは昔から字を書くことが好きで近所の書道教室に通っていた。通うようになってからは自分でも分かるくらいの書道のうでが上達し講師の先生から「賞を出してみたら」の一言で出た宮崎県コンテストで入選し、賞状や盾、記念品を頂いたそうだ。さらに全国の書道コンテストにも出したところ、佳作に入選され先生や家族総出で喜んだそうだ。本人は「先生のあの一言があったからこそ書道を続けることができた。これからもさらに上達して全国で一番になりたい」と思い出しながら語ってくれた。現在は飛鳥で過ごされ毎日デイサービスを利用している。今の楽しみは皆でワイワイ楽しめる風船バレーが好きだそうだ。もちろん月3回ある書道も楽しみで、どんなお手本が出るのかワクワクするんだとか。デイで書いた書道をまた全国に出して賞を取りたいと夢をもつ横山さんである。



家庭のぬくもりそのままにケアホームさくら荘



有限会社 聖

TEL 65-6300

FAX 65-6301

宮崎市本郷北方2708

* 広報誌のご意見をお待ちしています。

ようこそ陽だまりへ!



飛桜祭

9月19日(土)

場所: ケアタウン飛鳥

時間: 17:30~19:30

さくら祭

9月20日(日)

場所: ケアホームさくら荘

時間: 18:00~20:00

聖座太鼓・総踊り・屋台・花火など 盛り沢山!!

2015

9月号

● 有限会社 聖 ●

住宅型有料老人ホーム ケアタウン飛鳥

住宅型有料老人ホーム ケアホームさくら荘

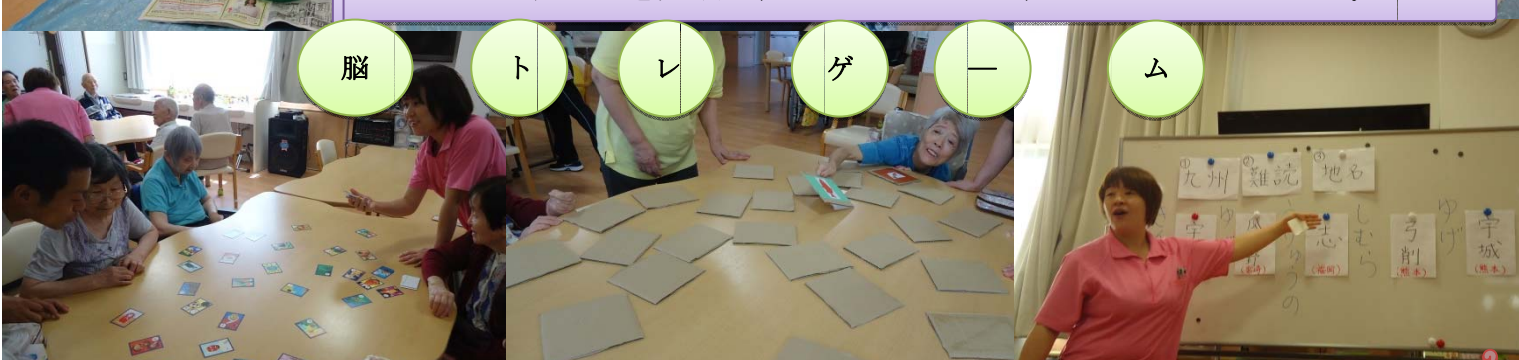
デイサービス 陽だまり ケアセンターさくら(訪問介護)

ケアサポートセンター ひじり(居宅介護事業所)

訪問看護ステーション 翔



スイカ割りでは違う方向に叩いたりスイカボールを叩いたりで大盛り上がりでした。



かるたゲームや神経衰弱、難読地名クイズなどで頭を使ったゲームで楽しまれていました。



誕生日会ではボランティアグループによるフラダンスを披露してくれました。

■八月のお盆は帰省したり行楽地に行ったり方もいただろう。熊本・鹿児島間を走る肥薩オレシシ鉄道では観光列車おれんじ食堂がある。九州の旬の食材を使った逸品メニューを、車窓を眺めながら味わえるのだ。運行するのは毎週金・日曜、祝日とお盆の時期のみで、一便が朝食、二便がランチ、三便がライトミールとティナーを提供している。また金曜日のみパーティタイムを楽しむ四便を運行している。停車駅では地元の人たちによる手作りのマルシェも開催さ



陶芸教室では皿やコップ、箸置き、動物の置物などを作りました。作品は「飛桜祭」で販売します。お楽しみください。



りんともみじの 飛 鷹 口 誌
りんともみじは飛鷹の マスコット犬です。

■八月一五日、終戦から七〇年の節目を迎えた。政府主催の追悼式で天皇陛下のお言葉で初めて「さきの大戦による深い反省」に言及し、「戦争の惨禍が再び繰り返されぬことを切に願う」などと述べている。戦没遺族は年々高齢化している。厚生労働省によると、今年の追悼式に参加した遺族のうち戦没者の妻は一四名。一〇年前の一〇分の一以下に減っている。参列者の最高齢は、陸軍兵だった夫がビルマ（現ミャンマー）で戦死した京都市在住の百歳の女性。最年少は曾祖父が沖繩本島で戦死した沖縄在住の三歳の女の子だった。戦争を知らない私たちは今を生きる世代、明日を生きる世代の為に未来を切りひらいていかなければならない。
■地域の風物詩となった飛鷹・陽だまりの飛鷹祭（秋祭り）後一カ月に迫った。デイでは午後のレク活動を使って祭りの準備を進めている。そして祭りのメインイベントである職員が演じる「聖座（和太鼓）」練習に熱が入っている。練習は月二回勤務終了後にメンバーが集まり、各自使用する太鼓を準備し、